３．事業報告

（以後の記述においては、「☆」を付けて担当部局を記した。）

（１）公益事業

Ａ．概要

ア．視覚障害者に関する啓発及び視覚障害者の生活を支援する各種事業を実施した。

イ．視覚障害当事者への情報提供とともに、一般市民に対する視覚障害についての正しい知識の普及に努めた。また、中途障害者を中心とした相談活動を通じ、京都府内で暮らす視覚障害者の社会参加促進を支援した。

ウ．視覚障害者の外出を保障するため、ガイドヘルパーの派遣や育成に取り組んでいる。

Ｂ．自主事業

ア．視覚障害情報誌「点字京都」の発行　☆広報啓発部

ａ．点字版・墨字版・録音テープ版・デイジーＣＤ版・Ｅメール版をそれぞれ発行し、希望者に届けた。

ｂ．第７５５号～第７６６号及び号外を発行した。

イ．三療学術研修会の開催　☆職業部

舞鶴市で実施した北部研修会を含め、三療学術講座を２講座開催した。

ウ．目の健康講座の開催　☆地域団体支援部

２か所で開催した。

エ．第３１回京都視覚障害者文化祭典　☆社会参加部

２月２５日　　京都ライトハウス

オ．街角点字教室　☆事務局

１会場

カ．指導者研修会の開催　☆総合企画部

２月３日～２月４日　　京都ライトハウス

キ．各種スポーツ大会の開催　☆スポーツ部

スポーツデー　１０月１日　　京都ライトハウス

京視協ゴールボール大会

２月２５日　　京都市障害者スポーツセンター

ク．各種スポーツ大会への派遣等　☆スポーツ部

ａ．グランドソフトボール選手強化事業

ｂ．第６０回近畿視覚障害者グランドソフトボール大会

６月４日　　　兵庫県

ｃ．第６０回近畿視覚障害者卓球大会

１１月１２日　　滋賀県

ｄ．第４５回近畿視覚障害者フロアバレーボール大会

１１月１９日　　堺市

Ｃ．受託事業

ア．京都市視覚障害者生活指導員派遣等事業　☆事務局

ａ．現状に合わせた事業名とするため、「中途失明者」から「視覚障害者」への変更を申し入れた。その結果、「京都市中途失明者生活指導員派遣事業」から、「京都市視覚障害者生活指導員派遣等事業」へと事業名が変更された。

ｂ．新型コロナが５類に移行し、訪問での相談件数が増加した。

ｃ．関係機関においてもコロナ禍で減少していた、対面での意見交換会や研修会が再開され、より深い連携、チーム支援の実現に向けた活動ができた。

ｄ．京都ロービジョンネットワークへ引き続き運営委員を派遣し、視覚障害者の生活に視点を置いた取り組みを行った。また、相談員のスキルアップのために年３回の相談員研修会に参加した。

イ．視覚障害高齢者社会生活教室の開催　☆高齢部

ａ．本部開催

高齢者福祉のつどい　１１月１６日　　京都ライトハウス

ｂ．地域開催　　＜京都府内＞８地域　＜京都市内＞１１地域

ウ．京都府視覚障害家庭生活訓練事業等　　☆女性部 １０地域

エ．京都市視覚障害者家庭生活訓練事業等　☆女性部

ａ．本部開催 ５教室

ｂ．地域開催 ６地域

オ．盲青年等社会生活教室　☆青年部

＜京都府内＞３地域　＜京都市内＞８地域

カ．点訳奉仕員養成等　☆社会参加部

ａ．点訳奉仕員養成講習会（京都府内開催分） ３地域

ｂ．点訳奉仕員認定試験　（京都府内開催分）

＜府内北部会場＞１１月９日　　あやべ・日東精工アリーナ

＜府内南部会場＞１１月９日　　京都ライトハウス

ｃ．点訳奉仕員講師養成事業　点字指導者研修会

＜開催地域＞北部・南部

キ．視覚障害者対象訓練諸事業　☆ＩＴ活用推進部及び事務局

ａ．京都府視覚障害者点字講習会 ５地域

ｂ．京都府パソコン講習会 ３地域

ｃ．京都府パソコン指導者講習会 ２地域

ｄ．京都府デイジー講習会 ７地域

ｅ．京都府その他携帯電話等最新機器講習会 ４地域

ｆ．京都市点字講習会 ３回

ｇ．京都市パソコン講習会 ３講座

ｈ．京都市デイジー講習会 ２講座

ｉ．京都市その他携帯電話等最新機器講習会 ８回

ク．視覚障害者更生訓練事業の実施　☆地域団体支援部

本年度も「視覚障害者ふれあいのつどい」として府内３か所で実施した。

ケ．京都市成人講座（☆社会参加部） ７会場

コ．京都市点字広報等発行事業

引き続き「京都市障害保健福祉のしおり」の視覚障害者対応版が視覚障害の身体障害者手帳取得時に配布できるよう、点字版・墨字版・テープ版・デイジーＣＤ版を発行した。

Ｄ．同行援護事業等

ア．全体

ａ．新型コロナによる大幅な利用減少から回復はしたが、収益はコロナ禍以前の９割程度にとどまっている。

ｂ．同行援護が創設された改正障害者自立支援法の成立した１２月３日が「視覚障害者ガイドヘルパーの日」として記念日認定されたことを受け、記念事業を実施した。「ガイドヘルパー」の認知度や啓発の必要性について改めて考える１年となった。

ｃ．同行援護事業所等連絡会へ委員を派遣し、全国的な同行援護の発展を目指した取り組みに協力した。

イ．受託事業に関して

ａ．京都府から受託している同行援護従業者養成研修について、北部・南部は一般課程及び応用課程を、中部は応用課程を実施した。また、現在ガイドヘルパー業務に従事し、スキルアップを希望する方を対象にフォローアップ研修を実施した。

ｂ．京都市から受託しているガイドヘルパー現任研修については、「基本技能のふりかえり」をテーマに４会場で実施した。バスや電車で起こりやすいヒヤリハットについて、グループワーク及び実技で原因と注意点を確認した。他事業所で勤務されているガイドヘルパーの参加もあり、受講生同士で熱心に確認、共有する等、充実した研修となった。

ｃ．京都市から受託している入院時意思疎通支援事業については、新型コロナの影響で院内支援が難しい状況が続き、利用要請がなかった。

ｄ.重度障害者等就労支援特別支援事業については利用要請に対し派遣を行った。また、支援計画の作成について支援を行った。制度上の問題等により利用に結びつかない方がいることが引き続きの課題である。

ウ．京視協ガイドヘルプステーション及び南部ガイドセンターの取り組み

ａ．新型コロナウイルス感染症に関し、利用者及びガイドヘルパーが感染した際、抗原キットの送付や検査付き添いなどの対応を行った。

ｂ．京都府指定養成研修を４月に実施した。

ｃ．全登録ガイドへルパーを対象に、事業所独自の研修を京都市消防局の協力で「緊急時の応急処置について」をテーマに４会場で実施した。また、登録から１～２年目を対象とした初任者研修は、事前アンケートを基にグループワークと、先輩ガイドヘルパーからアドバイスをもらう時間とした。

ｄ．ガイドヘルパー不足のため、本年度も定年ガイドヘルパーへ１年間の活動延長依頼をし、了承が得られたガイドヘルパーに活動を継続してもらった。

ｅ．新規利用の希望については、可能な限り受け入れた。

ｆ．利用者懇談会を本部及び南部で実施し、参加者より活発に意見が出された。

エ．ガイドヘルパー養成等

ａ．京都府委託視覚障害者ガイドヘルパー養成研修の受託

＜一般＞２会場

＜応用＞３会場

　　 京都府指定視覚障害者ガイドヘルパー養成研修　　１会場

ｂ．京都市視覚障害者ガイドヘルパー現任研修の受託　４会場

ｃ．登録ヘルパー現任研修　　　　１回

ｄ．新規登録ヘルパー説明会　　　２回

オ．居宅支援事業所情報提供事業（ガイドヘルパーネットワーク事業）

利用登録数　　７９４名

登録ヘルパー　３４７名

派遣件数　　　　　４件

カ．文書発行

対外文書　６２号

対内文書　２４号

ガイドヘルパー宛文書　　１２回

利用者宛文書　　２回

キ．京都府内視覚障害者ガイドヘルパー派遣実績

（2024年３月３１日現在）

利用者数（月平均） ４１５名

派遣件数　　 ２６,４８９件

派遣時間数　 ８９,８４０.９５時間

登録ガイドヘルパー数　 　 ３４７名

ガイドヘルパー活動数（月平均）２９０名

（２）収益事業

Ａ．概要

ア．行政発行物の点字版・録音版の製作及び発送等を行った。

イ．京都市の市民しんぶんや市会だよりの録音版製作に加えて、挟み込み等で不定期に発行されるお知らせや、視覚障害者が委員として参加している会議の資料についても、点字版・録音版の製作及び発送の受注に引き続き努力した。

ウ．コロナ禍以前と同等の状況までは至らなかったが、各種イベント開催の復活や、京都市ごみハンドブックの発行などに伴い、各家庭への配布物の受注がかなり回復した。

エ．京都市からの印刷物に添付されている二次元コードについて、視覚障害者にも晴眼者と同等の情報が提供されることを目指して、コードの代わりに、ホームページのＵＲＬまたは、ホームページにたどり着くための検索語を提示できるよう、その都度京都市の担当部局と調整を行った。

オ．同じ視覚障害者でも、ホームページを閲覧できる人とできない人とでは情報格差が大きくなる。また、配布物やメールマガジンのように受動的に情報が提供される物と、ホームページや掲示されるチラシのように自主的に情報収集が必要となる物では、視覚のハンディが晴眼者以上に大きな格差をもたらしてしまう。この課題については、引き続き啓発活動を行うとともに、解決策の一つとして、広報の受注拡大についても一層努力する必要がある。

カ．京都市以外の市町村における情報提供の現状把握と改善要望については、各地域での情報・コミュニケーション条例施行や障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法の趣旨も踏まえ、地域団体とも協力し、体制整備の支援も含めて、一層取り組んでいく必要がある。

Ｂ．主な製作物

ア．京都市「声の市民しんぶん」等の製作・配布

ａ．全市版及び各区版のテープ版・デイジーＣＤ版を毎月製作し配布した。

ｂ．「声の市会だより」のテープ版・デイジーＣＤ版を８回製作し配布した。

イ．京都マラソンに関連するお知らせや健康診査のお知らせなど、一般家庭に市民しんぶんと共に配布される案内の点字版・テープ版・デイジーＣＤ版を製作した。

（３）厚生事業

Ａ．概要

記念事業等準備資金・互助基金・弓削基金の各会計を運用した。

Ｂ．会員の互助活動

ア．慶弔

結婚祝 ０件

金婚祝 ４件

銀婚祝 ５件

米寿祝 ２１件

白寿祝 ０件

傷病見舞 １０件

弔慰 １６件

餞別 ０件

火災見舞 ０件

風水害見舞 ０件

地震見舞 ０件

イ．本年度中に亡くなられた方々

※以前に逝去された方で本年度ご報告があった方を含む。

北川　弘康　　様（右京地域）

北村　良子　　様（右京地域）

溝川　正　　　様（右京地域）

山内　彰子　　様（右京地域）

五十嵐　ユキ子様（上京地域）

中村　孝　　　様（北地域）

谷口　敏　　　様（下京地域）

前田　常子　　様（下京地域）

岸川　マチエ　様（西京地域）

高瀬　輝夫　　様（東山地域）

伊藤　辰見　　様（伏見地域）

青井　韶一　　様（山科地域）

尾田　マチ子　様（山科地域）

梶内　正富　　様（山科地域）

滝波　利男　　様（与謝地域）

滝波　八重子　様（与謝地域）

新森　美智子　様（舞鶴地域）

足立　たけの　様（福知山地域）

岩﨑　悦子　　様（綾部地域）

藤田　康子　　様（綾部地域）

一谷　孝　　　様（京丹波地域）

山﨑　美代子　様（亀岡地域）

池西　照子　　様（相楽地域）

Ｃ．本会会長表彰者

ア．弓削賞

中川　正敏　　様（中京地域）

長谷川　芳孝　様（向日地域）

イ．本会活動援護功労表彰

学校法人 京都仏眼教育学園　様

榊　美智子　　様

ウ．地域団体活動援護功労表彰

該当なし

（４）法人事業

１．概要

ア．全会計の管理を行うとともに、事業や会議などを行った。

イ．事業として、関係団体との交流や、総会・理事会等の会議を実施した。

２．第７６回全国視覚障害者福祉大会（奈良大会）

５月２１日～５月２２日

ダイワロイヤルホテル ザ 橿原及びオンライン

３．地域団体訪問

正副会長を中心に、本会との有機的連携を目指して地域団体の訪問を行った。

年間実績　計２６回

４．各種会議の開催

定時総会、理事会、正副会長会議、そのほか必要に応じて、会議・打ち合わせなどを行った。